

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2021

課題番号：16K02056

研究課題名(和文) グローバル時代の女性労働：女性活躍と企業支援

研究課題名(英文) Women's Labor in the Global Era: Women's Advancement and Corporate Support

研究代表者

中村 艶子 (Nakamura, Tsuyako)

同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授

研究者番号：30329958

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究「グローバル時代の女性労働：女性活躍と企業支援」は、グローバル時代における日米の女性労働を、キャリア形成およびワーク・ライフ・バランス(以後「WLB」)面から考察を行ったものである。女性活躍推進を重要課題として掲げる日本と、女性のキャリア推進先進国である米国との比較研究により、女性労働における女性活躍上の問題を浮き彫りにした。本研究の主たる目的は以下の2点である。

- 1) 日米の「キャリア形成」と「WLB」に焦点を当てた女性労働の理論構築。
- 2) 女性が輝きながら活躍できるグローバル時代の労働条件・職場環境要因の発見・分析。

研究成果の学術的意義や社会的意義

WLBを推奨する企業の理念・行動、キャリア形成要因での理論構築と最先端のケースからの本研究で行う提言は管理職者の養成や若い世代を始めとする女性たちの意識高揚につながると予想される。女性のキャリア形成と育児支援面等のWLB支援制度の考察を行うことで、日米国際比較での企業社会構造の相違点と女性活躍推進要因が明らかになると予想される。グローバル化時代の新たな働き方の一側面を提示し、女性のキャリア形成とWLB(特に育児)の切り口から理論構築した成果は、社会政策・雇用政策へつながる意義のあるものである。従って本研究は学術的にも社会的にも意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This research, "Women's Labor in the Global Era: Women's Advancement and Corporate Support," examines women's labor in Japan and the United States in the global era from the perspective of career development and work-life balance (hereinafter "WLB"). A comparative study between Japan, which places the promotion of women's advancement as an important issue, and the United States, which is an advanced country for promoting women's careers, highlights the problems of women's advancement in women's labor. The main purposes of this research are the following two points. 1) Construction of a theory of female labor focusing on "career formation" and "WLB" in Japan and the United States. 2) Discovery and analysis of working conditions and work environment factors in the global era where women can play an active role while shining.

研究分野：女性労働(社会学)

キーワード：ワーク・ライフ・バランス 女性労働 グローバル時代

1. 研究開始当初の背景

女性のキャリア形成と雇用の在り方は重要課題の一つである。1990年、国連ナイロビ戦略で、「指導的地位に就く婦人の割合を30%に」との目標が掲げられて以来、女性活躍の重要性は世界規模で取り組まれてきた。日本はこれを基に、2003年女性管理職割合の目標値を30%に設定し、経済同友会などもこれを経営者の行動宣言に掲げて女性管理職登用を推進課題としてきた。日本政府（本研究開始当初、安倍政権）は「一億総活躍社会の実現」に向け、その一環である「すべての女性が輝く社会」のために、女性登用を「3本の矢」の成長戦略の一つに、また育児支援を「新3本の矢」の主眼において「女性活躍推進法」（2016年4月）を施行するなど、官民挙げての取り組みを推進した。日本が一刻も早く国際水準に近づき、競争力を高め、成長することは喫緊の課題であった。（現在もこの課題は国策として取り組まれている。）

2. 研究の目的

本研究「グローバル時代の女性労働：女性活躍と企業支援」は、グローバル時代における日米の女性労働を、キャリア形成およびワーク・ライフ・バランス（以後「WLB」）面から考察するものである。女性活躍推進を重要課題として掲げる日本と、女性のキャリア推進先進国である米国との比較研究により、女性労働における女性活躍上の問題を浮き彫りにする。本研究の主たる目的は以下の2点である。

(1) 日米の「キャリア形成」と「WLB」に焦点を当てた女性労働の理論構築。

(2) 女性が輝きながら活躍できるグローバル時代の労働条件・職場環境要因の発見・分析。

刻々と変化するグローバル時代において、日本における女性労働の現状とニーズを把握し「女性が輝きながら継続就業できる、新しい労働条件や職場環境のケース」を提起する。日米のケーススタディを基に女性労働の理論構築を行い、グローバル時代の企業動向の観点から企業の労働形態・環境を精査し、女性のキャリア形成の問題点と方向性を包括的にまとめ、その成果によって時代が求める新しい働き方を見出し、女性が輝けるような女性活躍のための提言を行い、新時代へのメッセージとして社会貢献につなげたいと考えている。

3. 研究の方法

- ・ 3つの科研採択課題を含むこれまでに蓄積された研究成果に、先行研究文献および新規企業のケーススタディを加えた、過去20年にわたるWLB支援企業の動向吟味。
- ・ 女性労働上の継続就業の実情と意識およびその課題把握。
- ・ 女性管理職者と次世代の若い女子学生、および男性役職者も含めたフォーカスグループの知見から分析したグローバル時代の人材育成と女性の継続意識の考察。
- ・ 日米企業の理念・企業行動面からの女性登用促進要因分析。
- ・ 日米先進的企業のケーススタディの労働条件・職場環境要因分析。

4. 研究成果

本研究ではワーク・ライフ・バランス問題を、企業を主とした経営面から国際比較観点をも対照ケースとして考察した。

(1) 日米の「キャリア形成」と「WLB」に焦点を当てた女性労働の理論構築。

(2) 女性が輝きながら活躍できるグローバル時代の労働条件・職場環境要因の発見・分析という目的に沿って、子育て、女性問題から進化してきたワーク・ライフ・バランスを男性も参加できる、男女平等かつ未来志向的なワーク・ライフ・バランス概念として考察し、ワーク・ライフ・バランスの概念や分析視角を考察。

ワーク・ライフ・バランスの世界的動向から特徴のあるアメリカを例に挙げてワーク・ライフ・バランスの動向を論じた。柔軟な働き方が進むアメリカでも、欧州などから見れば不十分で課題とされている家族医療休業法（FMLA）面からワーク・ライフ・バランス政策を論じた。

また、人口減少、グローバル化、女性活躍、IT・AIによる技術革新、幸福、働き方改革などについて着目し、日本が他のOECD諸国等に比べて仕事と生活のゆとりが欠けている点、職業生活は非常に厳しく、長時間労働の短縮や保育問題が女性活躍推進上の課題であることを示した。女性活躍面では、女性が継続就業できるワーク・ライフ・バランス要因として保育問題と男性の育児関与、そして働きやすい職場要因が不可欠であることを叙述した。ワーク・ライフ・バランスは、すべての働く人々が自らの職業生活を考え、企業が経営面を改善し、グローバルな競争力をもった組織として生き残っていくための重要な戦略である。グローバル時代の中で刻々と変わる労働環境において、本研究の視点と事例が、未来志向的な働きやすい職場環境を提供できる一助となることを目的とした。

刻々と変化するグローバル時代において、日本における女性労働の現状とニーズを把握し「女性が輝きながら継続就業できる、新しい労働条件や職場環境のケース」を提起するという申請どおり、「日本と米国における女性労働の違い」と題し、女性のエンパワメントについて国際会議にて基調講演を行い、別途共著の第9章“ In Search of Women’s Advancement in Japan, A Case Study to Promote Women’s Empowerment in the Business Community,” pp.197-216, Katsuhiko Hirasawa, Tsuyako Nakamura and Yutaka Takakubo Eds. *Transforming Asian Economy and Business Administration : Excellence and Human Resources Book on Demand, Germany 2022* を上梓するに至った。

また、ダイバーシティ&インクルージョンの文脈において、学会の統一論題「人手不足下の女性活躍と人事労務管理：ダイバーシティ&インクルージョンに向けて」と題して発信し、論文として収め、日米企業の理念・企業行動面からの女性登用促進要因・労働条件・職場環境要因については、第5章「人事資源管理論とジェンダー・ダイバーシティマネジメント」(pp.69-84)、第11章「職場環境の転換期」(pp.160-172)、III部扉解説「働き方の未来」(p.173)『価値創発(EVP)時代の人的資源管理』(ミネルヴァ書房)守屋貴司・中村艶子・橋場俊展共編著、および第8章「女性活躍推進とワーク・ライフ・バランス：雇用制度への影響」『雇用関係の制度分析-職場を質的に科学する』(ミネルヴァ書房、2020)にまとめることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中村艶子	4. 巻 第29号
2. 論文標題 労務理論学会統一論題「人手不足下の女性活躍と人事労務管理：ダイバーシティ&インクルージョンに向けて」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 労務理論学会誌	6. 最初と最後の頁 pp.39 - 52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 11件/うち国際学会 5件）

1. 発表者名 中村艶子
2. 発表標題 統一論題 「人手不足下の女性活躍と人事労務管理：ダイバーシティ&インクルージョンに向けて」
3. 学会等名 労務理論学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsuyako NAKAMURA
2. 発表標題 In Search of Better Working Conditions: From the Japanese Perspective of Women ' s Career and Work/Life (基調講演)
3. 学会等名 The International Symposium on Business and Social Sciences (Hawaii, USA) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村艶子
2. 発表標題 米国と日本の働き方からみた、未来志向のワーク・ライフ・バランス
3. 学会等名 あけびネットワーク (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村艶子
2. 発表標題 日本と米国における女性労働の違い
3. 学会等名 関西経済連合会女性のエンパワメントのための米国派遣プログラム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村艶子
2. 発表標題 "Women's Progression and Experiences in Japanese Context"
3. 学会等名 Gender, Work & Organization (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村艶子
2. 発表標題 Gender Diversity Management in Japan: A Case Study to Promote Women's Empowerment in the Business Community
3. 学会等名 The 7th International Conference on Business and Social Science (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村艶子
2. 発表標題 【招待講演】「日本と米国における女性労働の違い」2018.6
3. 学会等名 女性のエンパワメントのための米国派遣プログラム(関西経済連合会)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村艶子
2. 発表標題 女性のエンパワメントのための「米国派遣プログラム2018第1回事後研修講話」2018.8
3. 学会等名 女性のエンパワメントのための米国派遣プログラム(関西経済連合会)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村艶子
2. 発表標題 A New Trend of Company-supported Daycare Centers in Japan: What it means to Japanese Society
3. 学会等名 The 6th International Conference on Business and Social Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村艶子
2. 発表標題 "Breaking the barriers for women's advancement: Japan in transition"
3. 学会等名 Oxford Women's Leadership Symposium (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村艶子
2. 発表標題 「ワーク・ライフ・バランスの推進に向けて～担当者が理解しておくべき男女共同参画の意義～」
3. 学会等名 平成28年度市町男女共同参画担当職員研修(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 艶子
2. 発表標題 「ワーク・ライフ・バランスの推進に向けて～地域での支援政策を考える～」
3. 学会等名 平成28年度市町男女共同参画担当職員研修 第2回・第3回研修（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 艶子
2. 発表標題 「日本と米国における女性労働の違い」
3. 学会等名 女性のエンパワメントのための米国派遣プログラム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 艶子
2. 発表標題 女性エンパワメント
3. 学会等名 女性のエンパワメントのための米国派遣プログラム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村 艶子
2. 発表標題 「女性活躍推進～働きたい女性を支援する保育事業～」
3. 学会等名 大阪府 女性活躍推進×事業所内保育事業（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村艶子
2. 発表標題 「多様な働き方と女性の社会進出：世界銀行グループの取り組みから見えること」
3. 学会等名 世界銀行グループ×関西経済連合会主催パネルディスカッション（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 中村艶子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 20 (pp157 - 176) /306ページ
3. 書名 第8章「女性活躍推進とワーク・ライフ・バランス：雇用制度への影響」樋口、西村編『雇用関係の制度分析－職場を質的に科学する』	

1. 著者名 守屋貴司・中村艶子・橋場俊展	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 『価値創発（EVP）時代の人的資源管理』	

1. 著者名 平澤克彦・中村艶子他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 『ワーク・ライフ・バランスと経営学』	

1. 著者名 中村艶子第10章「アメリカ企業の女性管理職・役員の登用」	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 13 (pp189-202)
3. 書名 渡辺峻・守屋貴司編『活躍する女性会社役員の国際比較』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------